バルト三国の歴史

物語　バルト三国の歴史より
志摩園子著　　中公新書

1869	タリン　第一回エストニア人歌謡祭開催		
1873	リーガ　第一回ラトビア人歌謡祭開催		
1880-90年代	ロシア化政策		
1905	第一次ロシア革命		
1914	第一次世界大戦		
1915	リトアニア人地域　ドイツ軍による占領		
1917/11/	第二次ロシア革命		
	エストニア	**ラトビア**	**リトアニア**
1918	各国独立宣言　　国際緊張緩衝国家の意味合い		
1920	ソビエト・ロシアと形式的平和条約		
1921	国際連盟加入		
1926			ソ連と不可侵条約締結
1932	ソ連と不可侵条約締結	ソ連と不可侵条約締結	
1939　　*1	8/23:独ソ不可侵条約にて　エストニア、ラトビアが、9/28リトアニアが　ソ連の影響圏に		
1939/9--10	ソ連と相互援助契約締結		
1940　　*2	6月　ソ連の占領下におかれる		
1940/7/29-8/25　9/5カウナス去るまで			**杉原千畝　ユダヤ人へ日本通過ビザ発行6000人を救う**
1941/6/13-14	ソ連による大量強制追放		
1941/6/22	ナチス・ドイツ軍ソ連に侵攻		
1941-44	ナチス・ドイツ軍三国占領 ソ連からの解放として迎え入れたが結局ナチスドイツが占領軍となった		
1944	ソ連軍　バルト三国再占領		
1944-	ソ連の占領に対する抵抗運動		
1947-52	集団化農場の設置　　ロシアからの移民増によるソビエト化		
1949　　*3	国外大量強制追放		
*4	ソ連の圧力下に脈々と続く文化的identity **歌とともに闘う革命**		
1988	ペレストロイカの リトマス試験紙と言われた		
1989/8/23	三国の首都　タリン、リガ、ヴィリニュスを「**人間の鎖**」で結ぶ（約200万人参加）		
1989/11/10	**(ベルリンの壁崩壊)**		
1990			3/11:独立宣言
1991		1/20:ソ連軍特殊部隊OMONラトビア内務省を攻撃	1/13:ヴィリニュス中心及びテレビ塔をソ連軍が攻撃・占領
1991/2/3	独立の是非を問う国民選挙　リトアニア90%、エストニア78%、ラトビア74%が独立賛成		
1991	8/20:独立宣言	8/21:独立宣言	
1991/9/6	ソ連、バルト三国の独立を正式承認		

	エストニア	ラトビア	リトアニア
1991/9/17	バルト三国国際連合に加盟		
1993			8/31:ロシア（旧ソ連）軍 撤退完了
1994	8/31:ロシア（旧ソ連）軍 撤退完了	8/31:ロシア（旧ソ連）軍 撤退完了	
2004/3	NATO加盟		
2004/5/1	EU加盟		
Euro通貨へ切替	2011/1	2014/1	2015/1導入決定(7/23)
現在の人口	131万人	219万人	297万人

＊1　1939年のバルト三国
三国政府の政策は、ソ連との良好な関係を維持すること、国際政治状況が改善されるまでソ連駐留軍との事件を避けることにあった。これは列強からの支援を得るための時間かせぎでもあった。バルトの独立はもともとドイツとソヴィエト・ロシアとの衝突によって可能となったので、ドイツが三国の中に駐留するソ連軍の存在を支持している限り、当面動きがとれない。さらに、ソ連の要求を拒否したフィンランドが、１１月３０日・ソ連軍による攻撃にさらされた。1940年３月12日には、冬戦争は終わりフィンランドはカレリア地域をソ連に譲渡した。冬戦争の経過は、事態の改善を西欧諸国には期待できないことを確信させた。

＊2
ソ連による三国の占領は、同時期、同手法で実行された。最初に行なわれたのは三国の共産党を合法化し、すでに存在する他の政党を禁止することであった。７月までに、多くの非共産党員は追放され、政府の大多数が共産主義者によって占められた。７月１１－１２日、１８－１９日には、彼らが反共産主義者とみなす人々を大量に逮捕し、非共産主義者を除外した単一候補者名簿による選挙が実施された。この選挙の結果、７月２１日一２２日に新しく選出された人民議会がソヴィエト共和国を宣言し、ソ連邦への加盟要求を採択した。これは８月にソ連最高会議で承認された。バルト三国の独立が崩壊したことに対して、欧州列強はほとんど反応しなかった。７月２３日、米国務省がバルト三国のソ連への編入の承認拒否を発表しただけである。

＊3
1949年1月12日、ソビエト大臣会議は、「すべての富農と彼らの家族、盗賊あるいは国家主義者の家族」とその他の人々をバルト三国から「国外追放」する命令を出した。1940年から1953年にかけて20万人以上の人々がバルト三国から国外追放されたと推定されている。その上、少なくとも7万5千人はグラグに送られた。バルト三国の大人の人口の10%が国外追放されるか強制収容所に送られている

＊4　歌とともに闘う革命
19世紀末以来、エストニア人とラトビア人の間で伝統となっていた歌謡（合唱）祭も、ようやく1960年代に再開した。1959年7月にラトビアのダウガヴピルスで開催された歌謡（合唱）祭には5千人が合唱し、7万人がそれに耳を傾けたという。エストニアで開かれた1965年の歌謡祭では、2万6千人の合唱者と21万人の聴衆がいた。エストニア人の8人に1人が会場で合唱を聞いたということになる。聴衆は、エストニアの人々にとって非公式の国歌ともいえる「我が祖国は我が愛」の歌を繰り返した。このような状況は、共和国民族にとってはプライドの発露であり、モスクワにとっては受け入れがたいものであった。

1988年の夏、エストニアの首都タリン郊外の野外音楽堂は25万人以上の人々の熱気であふれかえった。19世紀後半から続く長い伝統をもつ歌謡祭に使われてきた会場に集まった人々が、民主化を求めるスローガンや独立の回復を求めるスローガンを掲げて、伝統的な歌を歌った。それは、「歌とともに闘う革命」と呼ばれた。